

TMM スパコンのインターネット環境からの利用開始について

令和6年4月2日
東北メディカル・メガバンク機構

背景：

- これまで TMM 計画で機微性の高いデータの共有に当たっては、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインや NBDC ヒトデータ共有ガイドラインを参考に、遠隔セキュリティエリアからの Data-visiting でのアクセスに限定してきた。
- 一方で、Data-visiting が世界的にも広く利用されるにつれて、All of US の例に見られるように、機関承認と個人承認を組み合わせることで、安全性を担保しながら幅広い利用を可能にしているケースも散見されること、各種ガイドラインも継続的に改定され、ネットワークからのアクセスも広く規定されたことから、機微性の高いデータのアクセスの拡大に向けた見直しを進める時期に来ていると思われる。

今後の進め方：

- 第1段階として、令和6年4月1日から、プレリサーチ*に限定した TMM スパコンへのインターネットからのアクセスを開始する。プレリサーチでは、ダウンロードを想定しないことから、実装が比較的容易であり、まずはプレリサーチに限定して、インターネットからのアクセスを解禁して運用することで、課題の洗い出し等を行う。
- 実装の基本方針としては、機関の長とプレリサーチ利用に関する禁止事項や責任範囲に関する契約を結び、その契約を前提として、各利用者と利用に関する契約を結ぶ。加えて、技術的に可能な措置を講じる。
- 第2段階としては、第1段階で半年程度運用を行いつつ、問題点の洗い出し、申請フローの効率化を進め、令和6年10月を目処に 従来の遠隔セキュリティエリア及びシンクライアントからのアクセスに加えて、研究者が普段使っている PC からインターネットを通じた TMM スパコンの分譲・共同研究区画 (UnitB) へのアクセスを可能とすることを目指す。
- その後も、国内外の状況を見ながら、セキュリティには最大限の配慮をしつつ、公的なコホート・バイオバンクとして利活用を拡大すべく、利便性の向上に不断に取り組む。

※ プレリサーチ：研究計画を策定する前の段階で、研究計画の検討・立案のために統合データベース dbTMM を利用できる制度を令和6年4月1日より開始。

(以上)